

第4回 三沢市男女共同参画計画策定委員会 会議概要

1 日時:令和4年1月19日(水) 10時00分~11時40分

2 場所:市役所本館4階大会議室

3 出席者:(1)策定委員 委員長 石岡 裕通
副委員長 岩本 ヤヨエ
委員 桐原 賢哉
委員 林 光利
委員 小向 香織
委員 三浦 隆司
委員 伊澤 タネ
委員 長堀 晶
委員 保坂 梨恵
委員 新山 勉

(2)事務局 政策部長 佐々木 亮
同部広報広聴課 東 直実
同部同課課長補佐 馬場 洋一郎
同部同課市民協働推進係長 宮木 ひと美
同部同課市民協働推進係員 宮古 真由美

4 委員会概要:

○開会

○案件

計画書(案)の検討

事務局(馬場課長補佐):

案件に係る概要説明

発言者	ご意見・質疑など	事務局による回答
保坂委員	<ul style="list-style-type: none">・今回、用語集などが読みやすくなったと感じた。・全体的なデザインの部分で、実際これがそのまま冊子になるということだが、もう少しユニバーサルデザインを考えた色使い、フォント使いを考えてみてはどうか?・この計画書を見る方が必ずしも視力がいい方とは限らず、小さい子供やご高齢の方などもいるので読みやすさというのは非常に重要である。・青森県においてもカラーユニバーサルデザインのガイドブックというものが発行されている。	<ul style="list-style-type: none">・今、読んでもらえるための工夫ということで、色使いのデザインと字体等にご意見を頂いた。・字体について、例えば表紙はユニバーサルデザインの教科書字体を使っており、目次の部分はユニバーサルデザインの丸ゴシック等、基本的にはユニバーサルデザインの明朝体などを使用している。

発言者	ご意見・質疑など	事務局による回答
保坂委員	<ul style="list-style-type: none"> ・もしこれに基づいた色使いが可能であるならば、一人でも多くの方に読んでもらう、理解してもらうために、今一度確認したほうが良いと思う。 ・特に白地に黄色い文字が使われている部分はとても見づらいので、もう一度見直しをお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人によっては読み辛いこともあるかもしれないが、字体は基本的にユニバーサルデザインを採用している。 ・色使いについては、この計画書の理念である誰もが「自分らしく生きるために」というコンセプトをもちいて、虹色に合わせてカラーリングをしている。
石岡委員長(議長)	<ul style="list-style-type: none"> ・色使いというのは色にもっと工夫を、ということか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・今から修正出来る部分となると、黄色い文字をそのまま使うのを控えるなど、検討させて頂きたい。
保坂委員	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚に障害をお持ち方ご高齢の方等は、使われる文字のフォント一つとっても、通常の明朝体だと読みにくい。 ・丸く、出来るだけ刺激の少ないフォントがユニバーサルデザインとして採用されているので、県庁のガイドブックなどを参考にしてみてもどうか？ 	
石岡委員長(議長)	<ul style="list-style-type: none"> 色使いなどは、好みもあるのではないかと？皆に合う色使いというのは難しいのでは？ 	
保坂委員	<ul style="list-style-type: none"> ・好み云々のことではなく、多くの方に読んでもらえるような配慮の問題である。 ・まずこの計画書をいかに多くの方に読んでもらえるか、ということが大事なのではないか？ ・もちろん全体的なコンセプトというのも重要だと思うが、まずは読んでもらえなければ意味のない話である。 ・この資料に限らず、そういったところへの配慮は今後必要になってくると思うので今後もそういった観点での資料作成をお願いしたい。 	
新山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の体系がどのように進められていくのかというところで、優先順位を A、B、C、D で表したところがよい。 ・A の部分は直接人間の命に関わる場所、B は人間が生活する上で生理的な部分心の部分への配慮等、非常に素晴らしい取り組み。 ・ただ、優先順位は A、B、C、D より 1、2、3、4 のほうが良いのではないかと？ ・取り組み側も、期待する側も、目標や指標があると取り組みやすいように思う。 ・計画書を読まれる方が分からない用語があれば、末尾の用語集など参照することで理解も進むと思う。 	

発言者	ご意見・質疑など	事務局による回答
岩本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急度を入れたところが大変良い。ただ、緊急度 A=赤、緊急度 B=緑、となっているが、B=黄色のほうがいいのではないかと検討する機会がもしあれば考えていただきたい。 ・(28)の「性的少数者への配慮と支援」について、これを入れて頂いたことを嬉しく思う。ただ、緊急度がBであるのに、「配慮と支援」だと、少し取り組みが弱いように感じる。より良い表現があるのではないかと。 ・(16)の「各種付属機関への女性委員の積極的登用」の各種付属機関は具体的に何か？ ・(47)の「婦人相談体制の充実」を「婦人」ではなく「女性」に変えて頂くよう検討は可能か？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・7ページの(16)「各種付属機関等の女性の積極的な登用」の各種付属機関は、この男女共同参画策定委員会をはじめ、農業委員会、選挙管理委員会ほか市の施策・政策に関わる全ての付属機関の女性の登用率を指している。 ・既存の委員会は、男性の方が登用され意見を述べるというのがこれまでの実情。 ・女性の方を登用し委員会に参加して頂くことで、女性の視点の吸い上げの推進という意味合いで記載している。
岩本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・5年以上前かと思うが「三沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の審議会があり委員として出たことがある。 ・女性の委員は2人で、もう1人が欠席すると、自分がたった一人で闘うことに。 ・国では3割といっているけれど、県ではほとんどジェンダーバランスが取れているように思う。 ・市では、どの程度のジェンダーバランスになっているか不明だが、これが長期的に取り組むべきことだとしても、取り掛かりは今すぐにでも取り組んでもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・15ページの線グラフで、県・国・市における女性委員の割合を表している。 ・今この登用率を上げるように各所で努力しているところではある。 ・この数値を一定水準に保てるよう、もしくは女性の委員からの意見を吸い上げる割合を高くしていきたいということを踏まえ、この数字を保っていきたい。 ・「婦人」を「女性」というところは担当課と調整しながら前向きに検討したい。
石岡委員長(議長)	<ul style="list-style-type: none"> ・婦人と女性はどう違うのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・DVなどを相談する窓口になっている子育て支援課へ国から指導があり婦人相談員を設けよということになっている。
林委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「婦人」に対して男性は何というのだろうか？対義語に当たる言葉とはなにか。 ・「婦人」というと貴婦人とか高貴なイメージがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今でも婦人相談員という名称で相談を受けている担当者がいる。
保坂委員	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたところによると、「婦人」とは、基本的に成人した女性を指す。 ・よって「女性」よりも古めかしく改まった言葉なのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・そこから婦人相談員という名称となっているものと思うが、ここで使う名称は女性がいいかもしれない。

発言者	ご意見・質疑など	事務局による回答
石岡委員長（議長）	<ul style="list-style-type: none"> ・「婦人」のほうが、なんとなく敬語に近いような感覚がある。 ・また、今は看護婦という言い方はしなくなり、看護師という言い方になりつつある。 ・「婦人」という言葉は差別用語になっているのかもしれない。 	
岩本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「女性」という言葉の中には「婦人」が含まれるものとする。 ・この婦人相談体制というのは、女性からの相談なのか、それとも相談を受ける側が女性なのか、どちらか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・女性からの相談である。
岩本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・それであれば、成人した女性からの相談ばかりではないはず。担当課との兼ね合いはあると思うが、婦人と呼ばれるような年齢の方ではない女性の方からの相談もあるのではないかと？ ・「婦人」というと古臭いようなイメージもあり、今は徐々に「女性」という言葉に代わってきているものと思う。 ・三沢市も率先して変えていってほしい。 ・話は変わるが、三沢市は今も「姉妹都市」という言葉を使っているが、全国的に見ても「友好都市」や、「親善都市」という言葉に代わってきている。 ・三沢市もそういった言葉に変えていけばいいのではないかと考えている。 	
新山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・婦人相談体制の充実と、緊急一時保護支援というのはやはり女性の方が相談に来るのではないかと。 ・小学校、中学校、高校といった成人に満たない年齢の方々も対象になっているということであれば、岩本委員がいうように「女性」という用語のほうがいいのでは。 ・こういうタイトルの文言は説明のための長い文章を使うことは避け簡潔になると思うので（ ）を使って、短い言葉で説明をするなど検討してみてもいいのでは。 	
三浦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・用語説明が分かりやすくて良いと思う。 ・用語集は最後のほうにあるので、出てきた文言に注釈をつけ、資料の何ページに用語の解説がありますという※印などつけると興味を持ってもらえる資料になるのではないかと。 ・資料はだいぶ見やすくなったものと思う。 	
石岡委員長（議長）	<ul style="list-style-type: none"> ・大きさや形はこの冊子のおりになるのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・大体の大きさはこの通りだが、実際の冊子となると白枠がなくなり、もう少し2～3ミリ大きくなるものと思う。

発言者	ご意見・質疑など	事務局による回答
岩本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・用語集の「DV」の部分を「ディーブイ」、「ドメスティックバイオレンス」とか、「SDGs」の部分も「エスディージーズ」など、ふり仮名を振った方が分かりやすいのでは？ ・20ページの「性的少数者（性的マイノリティ）」の表記は、（ ）内は要らないのではないかと？少数者の部分がただ英語表記のマイノリティになっているだけ、よく使われるのは「LGBT（性的マイノリティ/性的少数者）」という表現。 	
保坂委員	<ul style="list-style-type: none"> ・各課題の部分にある市民アンケート、実際のアンケートの内容が盛り込まれていて、すごくいいと思う。 ・ただ、一つ、二つ程度の意見だと支障はないが、31ページの3つのご意見、どれも長文のものが載っているが、せっかくいいことが書いてあるので、行間がもう少し空いている方が見やすいのでは？ ・市民の声が実際にこういった計画に反映されていることはとてもいいと思うので、もう少し見やすくしてはどうか？ 	
石岡委員長（議長）	<ul style="list-style-type: none"> ・このページの下部に空白があるので、この空白を有効に使うべき。 ・3人の意見を載せるのならば、1人ひとりの間に1行程度の空白があってもいいのではないかと。 ・また、字のサイズをもう少し大きくしても余白が十分あるので問題ないのでは？ 	
三浦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の内容の部分で、各課題に対して SDGsの17項目の取り組み内容の記号が振られていてとても良い。 ・せっかくこの SDGsを意識した取り組みを三沢市がしているわけなので、17項目全てのイラストはぜひ、最後のページに盛り込むのではなくて、課題のページの前に持ってきた方がより分かりやすく内容が入ってくるのではないかとと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・検討します。
桐原委員	<ul style="list-style-type: none"> ・13ページの課題3の10番、「人権を尊重する教育と自立や生きる力を伸ばす総合的学習教育の推進」について、総合的学習教育という言い方、これは一般的なのかなというところが気になる。 ・また、内容について「学校生活を通じた相互理解や相互教育の必要性と、職場体験活動や家計について…」の部分の「家計」というところ、小学校・中学校では「家計」という言葉を使っている教育はあまり使わない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この内容について確認が足りなかったかもしれない。 ・庁内では学校教育課と確認しているので、担当課と協議の上、検討したい。

発言者	ご意見・質疑など	事務局による回答
桐原委員	<ul style="list-style-type: none"> ・小、中学校でやっているのは、消費生活ということでお金の出入りや管理というところであり、この表現の仕方について確認、検討してほしい。 ・資料編の39ページの三沢市男女共同参画策定委員の名簿のところ、私協議会の会長という身分ではなく事務局長という立場ですので、修正をお願いしたい。 	

○会議を終えて一言

岩本委員 (副委員長)	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の第3次みさわハーモニープラン、とても素晴らしいものが出来たと思う、三沢市民として誇らしい。 ・性的少数者の部分、ぜひ進めていって欲しいと思う。 ・言い出せなくて一人で悩んでいる方がいる、例えば左利きの人と同じぐらいの割合で、性的少数者の方がいらっしゃるのではないかといわれている。 ・三沢市がここのところをどんどん進めていくことが出来たらと思う。 	
桐原委員	<ul style="list-style-type: none"> ・一年間大変勉強させていただいた。 ・先ほど役職が違うことを報告したが、昨年前任の会長と協議した際に、男女共同参画委員会という名称であるので女性の校長先生をお願いすべきではないかという話をしてしたが、残念ながら昨年時点では、市内小中学校で女性の校長先生は一人もいなかった。今年は一人だったものの、多忙のため今回は私が引受けた。 ・やはり今後女性の方が活躍することが非常に重要になってくることから、女性の管理職がこれからどんどん増えて欲しいのですが、中々希望する方がいないなど大変なところもある。 ・何年か先には女性の校長・教頭がもっと沢山増えている学校現場になればいいと思う。 ・男性、女性を性差で分けるわけではないのですが、子供たちに指導する立場は母性のほうが子供たちにとって近い感じがある。 ・母親からの相談も女性の先生のほうが話しやすいのではないかと、そういったところもあるので女性の先生方の活躍を期待したいなど。 	
林委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私の職場は保育園ですので、男性は私がただ一人であとは全員が女性というような職場。 ・保育業界は女性のほうが男性に比べはるかに多い。例えば施設長が集まる場所では、女性が10人に男性が3人ぐらいの割合。 ・私の職場は平等といっても、逆にもう少し男性の地位を向上したいぐらい。 ・でもその職場、職場で全部違っていい、認め合えれば。 ・そして性的マイノリティとか色々あるけれど、みんな人それぞれ違って、その人その人の良さがあるのだから、良い面を伸ばして、認め合って、協力出来るところは協力していけばいい。 ・また、何か相談をする際に、紹介されてここの部署に相談してくださいとなると、電話を掛けるのは何か困りごとがあるということだから抵抗がある。相談員へ相談するというのは、敷居が高い。 ・私たちはいろんな場面で、みんな違っていいのだから、出来るだけ気づいて何か助けになることはないとか、何か困りごとがある時だけでなく、嬉しいことがあったら教えてというようなコミュニケーションの取り方が出来るよう努めたい。 ・それがその職場に勤めたい、組織に入って協力したい、三沢に暮らしたいということに繋がって 	

<p>(→続 林委員)</p>	<p>いくのではないかと。ぜひ皆さんもそのように努めていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働くという字はにんべん、人のために動くと書く。人のために動いて、そして感謝されるというのが一番いいパターンだと思う。人のために動いて喜ばれる、感謝される、その感謝の気持ちを忘れずにまた人のために動くことが出来れば自然と良くなっていくと思う。
<p>小向委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・このような重要な会議に参加させていただき感謝している。 ・これが広く市民に理解されることを期待している。 ・また、自分を磨くことにも繋がったと感じている
<p>三浦委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まずこの策定委員になるにあたり、10年前の第2次三沢ハーモニープランの会議に、三沢市青年会議所の部長が当時参加していた経緯から、おそらくこの委員に選定されたものと思う。 ・何度か参加してきた会議の中で一番心に刺さった言葉が、やはり長堀委員がおっしゃっていた「当事者になれていない」という言葉。 ・委員でありながら、当事者になり切れていない自分を痛感したので今回、資料もよく読ませていただき、内容を勉強するいい機会になった。 ・私も所属している団体の長なので、こういった活動を三沢市と策定委員の皆さんと一緒にやったということを団体の中でも広く伝え、所属している団体の中でも少しずつ草の根活動ではあるが、三沢市がこういう活動をして、こういった冊子が出るからよく確認するようにというようなことを伝えていきながら、市がどのような取り組みをしているかが広く一般的になっていくよう繋げていければと思う。
<p>新山委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この男女共同計画策定委員として微力ながら計画策定に参加出来たことを光栄に思う。 ・今3次計画ができ10年、20年、30年と、三沢市がこれを足掛かりとして、どんどん男女の隔たりをなくして行って、いつかはこの「男女共同参画」という言葉がなくても社会全体が性的マイノリティの方なども含め、皆が平等でお互いが尊重し合えるような明るく楽しい社会になっていけるよう、三沢市が率先して取り組んでいけることを期待している。
<p>保坂委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私は保育業界とは逆で、男性ばかりの技術職の中で長い間会社員生活をして来たので、女性が少ない職場でのやりづらさや生きにくさを結構経験してきたと思う。 ・今回のハーモニープランが2032年に改訂になる時に女性がもっと働きやすく生きやすい社会になっていければいいなと思う。 ・新山委員がいう男女共同参画と言わなくてもいいぐらい、三沢市はすごく一人一人が尊重される自治体だと言ってもらえれば、三沢市に移り住みたいという方も増えるのではないかと。 ・今回この計画の策定委員として関わられたことを誇りに思う。
<p>長堀委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今回私、三沢市内で活動する市民団体という立場で皆さんの仲間に入れて頂いた。 ・一方で私は移住者でもある。三沢市内はさまざまなエリアがある大きな町だと思うが、そのような立場でどんなことが言えるのかということを考えながら4回の会議に参加させていただいた。 ・とても素敵なプランになったのではないかと感じている。 ・一方で、実際にこのプランをもとにしたアプローチ、このアプローチ手法の部分において、これまでよりもまた更にブラッシュアップし、新たなチャレンジも取り入れていただきたいし、そういったところを期待したい。
<p>伊澤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この会議に参加させていただいて、つくづく思うことがあった。 ・私は、男女平等ではない育てられ方をさせられてきたし、また、結婚してもそのままだった。 ・夫も、男女平等なんてどこにあるというような、男は男、女は女というのをいつも言われてきた

<p>(→続 伊澤委員)</p>	<p>し、今でもそのままである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この男女共同参画計画を一番見せたいのは夫である。 ・育て方なのか育ち方なのか、私の息子は全然違う。お嫁さんになんでも手伝っていて、お嫁さんが遅番だというと食事の支度もする。 ・私は夫に見習えというが、一切見習う気はない。 ・なぜそうなのかなと思うので、これを一番見せたいのは夫。
<p>石岡委員 (委員長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・皆さんの色々な意見を聞き、私自身も勉強させてもらい、あっという間に一年が過ぎた。 ・私事だが、息子が二人いて、娘が一人いて、3人とも結婚し子供がいる。子供達世代は、男女共同参画が、身につけているように思う。今伊澤委員が言ったように、男だから飯とか風呂とかいうことはなく、食事をすれば皿はさっさと片付けるし、掃除もする。 ・進んでいないのは私達の年齢の人。私も最近洗濯や掃除をさせられていて、なんだか違和感はあるけれど男女共同参画社会に近づいてきているように感じる。 ・それから、このハーモニープランの31ページに掲載された市民アンケートからの意見にあるように「ともに生活していくためにどうすればいいか考える必要がある。足りないところを補い合って生きていく社会になればいいだけ。社会に出て活躍したい女性を応援し、子育てや介護に参加したい男性を応援してあげられる社会になって行って欲しい。」という意見、この通りだと思う。 ・女性、男性に違いがあるのはある意味当たり前かもしれないが、お互いがお互いを補い合い助けるということがどんどん浸透していくことが目的ではないかと思う。 ・先ほど桐原委員からもお話があったが、今は男女別が同じぐらいではないのか？ (桐原委員:やはり小学校は女性の教員のほうが多い。中学高校となってくると男性の教員のほうが多い。) ・それから学校の先生をやっていると教頭や校長になる試験もあると思うが、女性の先生はあまり受けたがらないのでは?管理職になるといろいろなところへ行かなければならなくなるし、という話はよく聞く。これを克服して校長先生などになるのは大変なのだろうなという面もある。

○閉会